

本書の目的

本書は、インテリアコーディネーター資格試験に最も容易に、かつ、確実に合格するために構成されています。このテキストをマスターすれば、最も合理的かつ最短に合格圏に入ることができます。

本書の特色・使い方

① 文章は簡潔に、かつ分かりやすくしました。

少ない時間で全範囲を勉強するには、楽に読める必要があります。そのため、本書は、なるべく文章を簡潔に、かつ、分かりやすくしました。

② 図表を多く盛り込みました。

文字ばかりのテキストではなかなか理解が進みません。テキストの内容に合わせた形で、図表があると理解が進むものです。そこで、本書では図表を多く盛り込みました。

③ 試験に出題されるか、否かの重要度を各事項のはじめに明示しました。

試験にあまり出ないところを一生懸命やっても無意味です。そこで、どこに力を入れて学習すべきかを各事項のはじめに、

超重要



重要



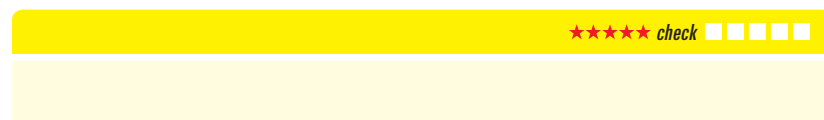
必須



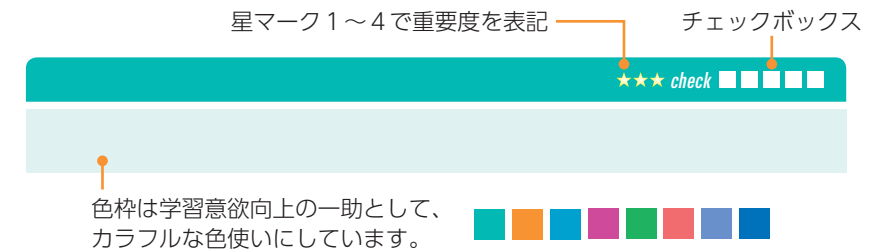
の3段階で示しました。

④ テキスト内の内容にも重要度を示し、確認のためのチェックボックスを設けました。

■黄色枠で5つ星マークが記してある箇所は、最重要事項です。



■テキストの本文中の必須学習項目は、黄色以外の色枠で囲み、1～4つの星マークで重要度を示しています。



■本文中の矢印は2種類あります。

➡ は結果を表し、➡ は流れを表します。

■長さの単位

建築やインテリアの分野では、長さの単位は主にmmを使いますので、本文中も極力mmで表記してあります。

また、図表の単位のない数字は、mmです。

■テキスト右ページ上部には、学習日の記録欄を設けました。学習進捗状況などの確認に役立ててください。



■テキストの各ページの下に「メモ欄」を設けています。

理解しづらい箇所に印をつけたり、メモをとったりする際は、メモ欄にすぐ書き込むのではなく、まずは付箋に書いてメモ欄に貼りましょう。

この方法で、テキストを汚さずに、気づいたことを一時的に記録します。

次に、学習を進めるうちに不要となった付箋をはがしましょう。付箋をはがすことで、学習が進んだことを実感できます。

学習が進んでもなお必要な情報を、メモ欄に書き込み、自分だけのオリジナルテキストに仕上げていきましょう。

本書の利用により、一人でも多くの方がインテリアコーディネーター資格試験に合格されることを、心より切望します。

欧米的な生活様式を取り入れている今日、西洋のインテリアの様式を知ることは大切です。西ヨーロッパのインテリア様式の流れ、ロマネスク → ゴシック → ルネサンス → バロック → ロココ → ネオクラシズム、を基本として、日本のインテリアの歴史と関連づけながら理解していくことが重要です。

1 古代

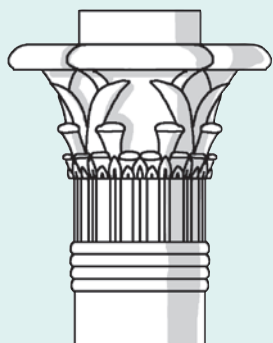


エジプト (紀元前3000年頃~)

★★ check ■■■■

■ 建築

住宅は日干しレンガ造ですが、神殿や墳墓は石造です。柱は、神像による装飾や植物を象った太い柱で、柱頭にはパピルスやロータスの装飾があります。



古代エジプトの柱頭

■ 家具

椅子は、権威の象徴として一部の支配者層で椅子式の生活が行われていました。動物脚と金箔や象嵌、彫刻の装飾があります。

ギリシャ (紀元前700年頃~)

★★★★ check ■■■■

■ 建築

石造建築技術が進みます。

パルテノン神殿

- 円柱の基部の直径をもとに、建築各部分の寸法が比例関係で決められており、この神殿の柱の構成体系を**オーダー**という
- 外観の調和と比例が重視されている



notes

■ オーダー

柱身の太さや柱頭の装飾。ギリシャ時代は3種類に分類されます。

	① ドリス式	② イオニア式	③ コリント式
エンタブラチュア (柱頭上部の水平材の総称)			
柱頭			
柱身			
基壇			
	最古。柱は太く、中央部にエンタシス(ふくらみ)をもち重厚で簡素	柱はドリス式より細い、羊の角のような渦巻き柱頭	柱はイオニア式とほぼ同じ、アカンサスの葉を模した柱頭

住宅は、れんが造や漆喰塗りで、中庭を囲んで部屋が配置され、比較的簡素。

■ 家具

機能的重視で質素、後の家具に影響を与えます。

クリスモス	クリーネ
婦人用の小椅子、脚が外側に湾曲している	寝椅子、カウチやソファの原型。テーブルを下に収納できる

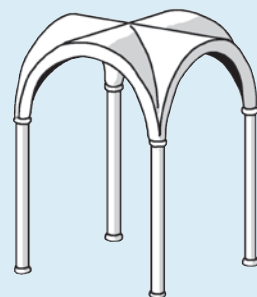
ローマ (ローマ帝国 紀元前 27 年～)

★★★★ check ■■■■

■ 建築

大空間の建築を可能とする技術が発展しました。

- ① コンクリートを使用する技術
- ② 交差ヴォールトや半球ドームなどのアーチの技術



交差ヴォールト

パンテオン	<ul style="list-style-type: none"> • ドームの大きさは直径、高さともに約43m • エントランスの列柱はコリント式 <p style="text-align: center;">ローマのパンテオンの断面図</p>
コロセウム	闘技場
ドムス	<ul style="list-style-type: none"> • 上流階級の住宅。天窓を開けたアトリウムの奥に、ペリスチリウム (中庭) を囲んで部屋が配置される • トリクリニウム (正式なダイニングルーム) で、寝椅子で横になって食事をする習慣があった • 床は大理石モザイク、壁にはフレスコの壁画が描かれた
インストラ	<ul style="list-style-type: none"> • 庶民の粗末な住宅 • 都市部に密集した5～6階建てのアパート

■ オーダー

新たに、トスカナ式とコンポジット式の2つのオーダーが加わります。

■ 5つの古典様式のオーダーの柱頭

トスカナ式		粗野
ドリス式		簡素で力強く、男性的
イオニア式		渦巻き型で優雅
コリント式		アカンサスの葉を模して華麗
コンポジット式		イオニア式とコリント式の組み合わせ

■ 家具

大理石やブロンズも用い、装飾性の高いものが好まれました。

セラ・クルリス	執務官の折畳み式椅子
レクタス	貴族が横になって会食する寝椅子